○議長（明和善一郎君）　４番　森　弘秋君。

○４番（森　弘秋君）　私からは、通告しておりますおでかけ定期券について質問いたします。

先日、ある研修会でこんな言葉を聞きました。「下々も下々、下々の下国の涼しさよ」。これは小林一茶の俳句なんですね。自分の置かれた環境等は下々の下国である。そこに身を置くことは、何と涼しくて、さっぱりして気持ちのよいことだろうという意味だそうです。

一茶はこれによって上昇志向というものを切り落としたと言われたそうですが、定かではありません。私はその意味を逆手に取って、さっぱりして気持ちはよいかもしれないけれども、まだまだ私たちは暑い。頑張りましょうと。

さて、世の中、今や高齢化社会、超高齢化社会に突入しつつあります。高齢者にとっては、一茶のごとく、そこに身を置き、元気で、楽しく、愉快に、相応の金銭に恵まれ、自由に過ごしたいと思うのが常であります。しかし、人生はまた常に上昇志向であるということが大切であるというふうに思います。先ほども言いましたが、まだまだ頑張れます。

したがいまして、高齢化社会を迎え、村民が元気で過ごしていくための種々の施策が重要であり、かつまた考えていかねばならないというふうに思います。

さて、その一つとしてお願いするものであります。この高齢者の住みやすいための施策の質問は古くて新しい問題であり、過去に幾度となく、いろんな視点から質問、要望がなされておりますが、あまり前進がないと見受けられます。

過去の関連する質問を幾つか見てみますと、まず２４年６月議会で買い物弱者の対応について質問がありました。高齢者の方は買い物ばかりではない。いろんな悩みを持っておられる。この悩みを解消できる環境づくりが最も大切であると答えておられます。

そして、２４年１２月議会で、要支援家族の地域での交流と見守りについて質問がありました。

２６年９月議会では地域包括支援対応について質問があり、住民自身が生涯にわたり生きがいを持つためには、健康であり、地域の中に居場所や生きがいを見つけることができる受け皿が必要だと言っておられます。

また、私からは２６年１２月議会で、アットホーム的な居場所をつくる。健康麻雀等団らんの場の提供等々、まさにエイジレス時代に対応する施設の整備など、いろいろな

意見を言ってきました。幸い幾つかの要望が実現しておりますが、まだまだこれからであります。

さきの議会では、川﨑議員から高齢者の外出支援の質問がありました。その議会の質問の中で、２６年１２月の高齢化率は１７．９３％、今後ますます増えることが予想されるとありました。デマンド型タクシーの質問もありました。さらに、交通費を一定の条件で補助できないかとの質問もありました。

私は、この問題を別の視点から質問するものであります。

村長は、必要性が十分にあり、かつ日常の買い物等、村外ニーズが高いが、満足できるサービスを実施しているとは言えないと認識しておられると思います。今後は、社会福祉協議会と連携を図りながら、高齢者にとって利便性の高いサービスを検討すると答弁。社会福祉協議会が実施している外出支援サービスについては、村内のみが可能であり、他の市町村には利用できないとの答弁も聞いております。

このような現況の中、運転免許保持者、免許返納者あるいは保持しているが交通が混雑していると思われる道路の走行、近くに用事をするときは、努めて公共交通機関を利用したいと思う高齢者が増えてくると考えます。

そんな中で、舟橋駅まではいろんな交通手段で行くことができますが、舟橋駅から富山市、立山町、上市町に行く手段は、私鉄に乗り移動することになります。村長も、私鉄富山地方鉄道を利用するしかない現状であると答弁されております。

また、この移動について、現在、割安定期券を発行している近隣の富山市、立山町の例を見て見ましょう。

まず、富山市の例を紹介します。対象は６５歳以上であり、その年の途中で６５歳に達する者を含みます。運賃は１００円であります。定期券は１年間有効であり、定期券購入時に１，０００円の負担をします。ただし、幾つかの条件があります。例えば乗車時間帯は９時から１７時までです。また、地鉄電車を例にとりますと、市内各駅から電鉄富山駅間及び市内各駅から南富山駅間であり、市内電車は全区間です。地鉄路線バス、富山ライトレールも若干の規制がありますが適用されます。越中荏原から電鉄富山駅間の運賃が３１０円です。２１０円安く利用できる。東新庄駅間も同様です。また、上滝駅から南富山駅間が５２０円で、４２０円安く利用できます。

次に、立山町の例を紹介します。立山町には、町営バス及び立山町民お気軽パスがあります。対象は６３歳以上の町民であります。立山町民お気軽パスの例をとりますと、

電車のみの定期の運賃は１カ月１，５００円であります。立山町内の地鉄駅間の乗りおりが対象で、回数も時間も制限がありません。ただし、町外の駅で降車される場合は対象外だそうです。初期投資が若干かかりますが、昼間の利用を主とする高齢者にとっては相当の経費節約と思われます。

車社会から公共交通機関を利用することによって歩くことが多くなり、大切であります。また運動にもなります。

高齢者のために、医療機関あるいは量販店等々に往来するための施策は多々考えられますが、公共交通機関を利用する者は今後増加すると考えます。

そこで、村内を通る公共交通機関は私鉄のみであり、この私鉄を利用するために、舟橋村もおでかけ定期のようなシステムを導入し、６３歳以上の人を対象とし、舟橋駅を拠点とした近隣市町、電鉄富山駅間４１０円、上市駅間３１０円、五百石駅間３１０円の分、それぞれ乗車できる１００円定期券、例えば、勝手に言いますが「にこにこでんしゃ定期券」、略して「にこでん定期」なる定期券を考えてみてはどうだろうかと思います。そんなに多くの予算はかからないと思います。手続のための初期投資が若干かかりますが、高齢者が気楽に近隣都市に行って買い物をする。きのうかおとといの新聞にも出ていましたね、どこかの議会で。歩くことは大事だと。健康にもつながります。ひいては、地方創生の戦略にもつながると考えるがいかがでしょうか。

まさに、一石二鳥、いや一石三鳥であります。一朝一夕にできることではないかもしれません。しかし、継続は力なりであります。少しずつではありますが、できることから一歩前進してもらいたいものです。

最初にも申し上げましたが、高齢者の環境整備に関しては多くの意見が問われました。その目標に向けた理念、指針について確たる考えをお答え願います。朝ドラの「びっくりぽん」の答弁をよろしくお願いします。

終わります。

○議長（明和善一郎君）　生活環境課長　吉田昭博君。

○生活環境課長（吉田昭博君）　４番森議員さんの高齢者の生活環境整備についてのご質問にお答えいたします。

議員ご指摘のとおり、本村には徒歩圏内に商業施設や専門の医療機関がないことや、公共交通機関も私鉄富山地方鉄道を利用するしかない現状から、買い物などへの移動手段には車が必要不可欠であることは事実であります。

また、平成２４年度に実施いたしました６０歳以上の方を対象にした舟橋村買い物環境等に関する調査でも、将来的に車の運転ができなくなった場合に不安を抱える声が多くありました。

このため本村では、高齢者が外出する交通手段の支援対策といたしまして、平成２２年７月より、６５歳以上の方が運転免許証を自主返還した場合に、月額４，０００円を５年間支給する高齢者運転免許自主返還者生活支援事業を実施しております。

また、２６年の４月より、舟橋村社会福祉協議会では、ホームヘルパーによる生活上の困り事を支援するファミリーサービスを拡充いたしまして、日常的な買い物代行を行うなどの生活支援サービスや運転ボランティアによる外出支援サービスを実施しております。しかし、外出支援サービスの利用範囲は、道路運送法の諸規定で村内に限定されているのが現状であります。

さきの９月定例会の一般質問でもデマンド型タクシーや小型バス導入のご提案をいただいておりますが、本村にとって一番大きな課題は、商業施設等の村外ニーズが高いことに加え、ニーズも多様化していることであります。

議員よりご提案いただきました地方鉄道の定期券補助につきましては今後検討してまいりますが、ニーズが高い買い物施設や医療機関は地方鉄道沿線に立地していないこともあり、地鉄駅から目的地までの２次交通に課題が残ります。

９月の一般質問の後に、近隣といいますか先駆的な事例調査研究を行ったんですけれども、ほとんどのこういった交通手段につきましては自治体内の中の対応、要するに、自治体を超えてこういったサービスを提供している事例が非常に少なかったということから、金融機関なんかとも連携をいたしまして、操業支援に対するサービスの可能性、こういったコミュニティビジネスやソーシャルビジネスを展開した場合に金融機関としての支援はないだろうかと、そのような事例等を研究してまいった次第なんですけれども、現段階においてこれが一番いいというふうな最善のものが見つかっていないような現状があります。

しかし、高齢者の外出支援事業につきましては、議員ご指摘のとおり、本村にとりまして重要なサービス施策でありますので、今後さらに県外の事例等を十分調査研究しまして、効率性並びに利便性の高いサービスを目指しまして、関係機関と協議を進めてまいりますので、議員各位のご理解を賜りますようお願い申し上げまして答弁とさせていただきます。

○議長（明和善一郎君）　森　弘秋君。

○４番（森　弘秋君）　今ほどの答弁の中で、一部ですけども、今後検討していきたいと。俗に言う役人根性で、検討します、検討します、確かに検討しますでいいんですが、ならばどこまで検討するのかと。

幾つかの例を述べましたけども、私が言っているように、そんなに進んでいないと。高齢化社会、高齢化社会、これは一生懸命しゃべっているんだけども、なら、実際高齢者はどうしているんだと。もう少し具体的に、例えば検討します、ですが、２８年度は無理かもしれんと。２９年度に少しやってみようかと。例えば調査をして３人しかおらんかったと。そうではなくて、こういったものを足がかり、きっかけにして、ああ、そうなんかと、こんなものもあるんかいなと、やっぱり舟橋村は少し開けているなというふうな方向で、定期券云々もそうですが、いろんなものについてそういうふうにしてもらいたいと。

そうしないと、せっかく日本一小さな舟橋村、面積の小さな舟橋村をアピールするんですから、アピールそのものも、私、前々から言っているんですが、なかなか進まないということで、何か少し高齢者のために、先ほど言いましたが、麻雀部屋もできました。私たち高齢者が遊ぶ場所もできましたけども、もう少し具体的にこうしていきましょう、いきたいですよというふうな答弁が欲しいなというふうにいつも思うんですが、だから２８年度は無理かもしれん、だけど２９年度ぐらいからは一遍いろんな調査をしてやってみようじゃないかと。それで、二、三年かけてやってみて、やっぱりだめだったとなればやめてもいいし、それくらいの実験といいますか、そういうものが欲しいなというふうに思っております。

そこらあたり、この問題だけでいいですから、もう少し突っ込んだもので答えをお願いしたいと思います。

○議長（明和善一郎君）　生活環境課長　吉田昭博君。

○生活環境課長（吉田昭博君）　ただいま森議員さんより、もうちょっと気持ちを見せろというふうなご指摘かと思います。

先ほどの繰り返しになりますけれども、この課題につきましては村にとっても非常に大きな課題だというふうに捉えております。この後、高齢者の割合がぐんぐん伸びてくるということは事実であり、その受け皿をきっちり整備していくということは非常に重要なことだと考えております。

具体的な期間を申し上げることはできないんですけれども、できるだけ早い段階でこのような問題に対処していきたいというふうに思いますので、よろしくお願いいたします。

以上、答弁とさせていただきます。